

## 令和4年度第1回山形健康長寿推進協議会における御意見について

### 1 会長・副会長の選任について

全ての委員の皆様より承認の回答をいただき、下記のとおり決定いたしました。

会長 粕川 俊彦 委員（山形県医師会）

副会長 今田 恒夫 委員（山形大学）

大沼 智之 委員（山形県歯科医師会）

※ 御意見等はございませんでした。

### 2 令和3年度主要事業の実施状況について（第2号議案）

委員	意見等
今田委員	幅広い領域で取組みがなされていて、良いと思われる。
菅原委員	様々な取組みが多角的に行われていると思う。
粕川委員	今年度は是非「妊産婦の喫煙防止対策」を行っていただきたい。
大沼委員	コロナ禍においても工夫した様々な取組みをされており、今後も期待している。
菅野委員	山形県は塩分摂取量が全国でも上位の塩分摂取量が多いので、減塩・ベジアッププロジェクト事業は今後も力を入れて継続してほしい。
西村委員	○生活習慣病対策として、減塩・ベジアップの県内での普及を拡大して欲しい。栄養士会、食改等地域で活躍している方の参画を望む。 ○糖尿病・CKDの重症化予防では75歳以上の在宅生活者への早期介入で透析移行を防止することが重要。栄養士会ではケア会議の後のフォローに動いている。
小野委員	「減塩ベジアッププロジェクト」大切な事ですが、野菜が高騰し、なかなか購入が難しい。規格外の野菜も多く出回るようになれば有難い。
後藤委員	○実施状況について、実績値（開催回数、参加数、販売数など）もあると規模感もわかり、事業評価にもなると思う。 ○健康経営特別番組は、DVD等で企業・事業所への研修や保健所での地域職域連携推進会議などでも有効活用できるのではないかと。 ○「やまがた健康ガイド」は市町村広報と併せて県内全世帯に配布できると、より多くの県民への周知になるのではないかと。
高橋委員	山形大学医学部との連携によるがん克服事業について、当機構においてはパンフレットの提供を受け、若者に対するがん予防支援事業の利用者に配布したが、「県民のあゆみ」等で県民に広く情報提供できるとよいと感じる。
高田委員	○メディアを活用した普及啓発は、より多くの住民に情報を届けるうえで有効であると思う。 ○やまがた健康ガイドは、スーパー等で手に入りやすくしていただいたこと、内容も幅広く冊子としても面白いものを作成いただいたと思う。
藤沢委員	○令和3年度は、最上総合支庁と連携し、社員食堂で適塩ランチを提供。その後も従業員の減塩に対する意識向上のため、継続的に取り組んでいる。 ○若者に対するがん予防事業のがん検診では、20代～30代の社員が受診。若い年代からがん検診を受ける重要性を認識し、気軽に受けようと思う従業員が増加した。
川野委員	地域の経営者にこういった取組みの存在をもっと広げなければならないと感じた。

佐藤委員	各対策分野にいろいろな事業が実施されているが、県民(一般生活者)が対象となる事業はなかなか知られていないように感じる。	
事務局回答		
粕川委員	妊産婦の喫煙防止について	妊産婦の方の喫煙防止については、妊娠届出時の機会等を活用し、たばこの煙による子どもの健康への影響など、正しい知識の普及啓発を行っております。今後も、市町村及び子育て支援担当部局との連携のうえ取組みを進めてまいります。
菅野委員 西村委員 小野委員 藤沢委員	減塩・ベジアップ事業について	減塩、野菜摂取増加の目標に向け、応援企業の実践の推進や、保健所単位での行政、教育、食生活改善、農業、企業分野における情報交換会などを開催し、情報を共有しております。 引き続き、取組みの普及拡大に向け、地域で活動される皆様とより一層の連携を図ってまいります。
西村委員	糖尿病・CKDの重症化予防について	糖尿病及び慢性腎臓病重症化予防事業として、人工透析への移行を遅らせるため、国民健康保険の被保険者を対象にハイリスクアプローチ事業を実施しています。糖尿病等対策検討会で事業内容を報告していますが、今後も山形県後期高齢者医療広域連合や各市町村と連携し、事業を推進してまいります。
後藤委員	資料について	助言いただきました点を踏まえ、次回より実績値を記載するなど、事業評価が分かりやすい資料とします。
後藤委員 高橋委員 高田委員 川野委員 佐藤委員	周知広報について	県では広報番組や県の広報誌での周知の他、「やまがた健康づくり応援企業」や県と連携協定を結ぶ企業・団体と連携して健康づくりに関する周知啓発を行っております。 しかしながら、ご指摘にもありますとおり、取組みが浸透していない部分もございますので、多様な広報媒体を活用しつつ、市町村及び地域・職域で活躍される皆様とも連携を図りながら県民の皆様健康づくりの取組みを広く周知してまいります。

### 3 令和4年度の主要事業の概要について（第3号議案）

委員	意見等
今田委員	前年から継続する事業と新規事業を明示するとわかりやすい。 また、継続、新規の理由(前年は…であったため、等)を簡単に記載すると事業の位置づけがわかりやすい。
金光委員	減塩・ベジアップ事業が広く県民に知られていないような気がするので、広報について更に工夫が必要。
菅原委員	若い世代のがん予防(子宮頸がん検診、ワクチンの推奨など)について、県内大学・専門学校との連携を提案したい。
粕川委員	認知症に対する対策が必要。
西村委員	○減塩・ベジアップキャンペーンに様々な団体等の参画・協力を推進していただきたい。 減塩が浸透していない現状を改善することが必要。 ○糖尿病・CKDの重症化予防に対しては、掛りつけ医師の保健指導箋が必要なため、医師会に働きかけ、市町村へ介入を促していただきたい。
小野委員	○「口腔がん」も増加していることから、「口腔がん」の周知も必要と思う。 ○循環器病普及啓発事業について、病院医師のwebでの講演会があり参加したが、聴講者が少なく残念であった。是非普及が必要と感じた。

高橋委員	<p>○コロナ禍であったが、数年ぶりの「やまがた健康フェア 2022」が開催され、商業施設ということもあり多くの県民に健康意識の向上を促せたと思う。</p> <p>しかし、一部集客が伸び悩んだところもあったので集客に向けたアプローチ法の検討が必要と感じた。</p> <p>○ウォーキングプロジェクトは新規事業であり、今後県民全体の平均歩数のアップが見込まれる事業と感じる。事業全体的に見ても令和5年度以降も継続すべき事業と感じる。</p>	
高田委員	<p>○栄養大ブランド商品の売り上げはどうだったのか。興味はあったが高くて買えないという声もあり、より手の届きやすい商品の検討は可能か。</p> <p>○ウォーキングイベントは、アプリを活用した取組みは、どの地域に居住していても参加できるため、市町村も一緒に実施できたらいいのではないかと。</p>	
齋藤委員	<p>○協会けんぽのデータでも山形支部は運動習慣の改善が必要な方の割合が全国ワースト2位(R3)となっている。今年度の新規事業、ウォーキングプロジェクトのように今後も楽しみながら運動の機会を拡大する取組みを是非推進していただきたい。</p>	
川野委員	<p>○弊社もこの度の「健康 UP サポート補助金」を導入させていただきウォーキングを促す取組みを実施した。1 か月間のウォーキングチャレンジだったが、社員全員が主体的に取り組んでいた印象だった。弊社としては、補助金の存在がきっかけだったので、引き続きこのような補助金を検討していただくと民間企業各社の健康への取組みのきっかけになるかと思う。</p>	
佐藤委員	<p>がん患者に対する助成事業がかなり充実していると感じる。どのくらいの利用率なのか教えていただきたい。</p>	
<b>事務局回答</b>		
今田委員	資料について	<p>助言いただきました点を踏まえ、次回より前年の事業実績を含め、計画した理由を記載し、事業の位置づけが分かる資料とします。</p>
金光委員	周知広報について（再掲）	<p>県では県政広報番組や県の広報誌での周知の他、「やまがた健康づくり応援企業」や県と連携協定を結ぶ企業・団体と連携して健康づくりに関する周知広報を行っております。</p> <p>しかしながら、ご指摘にもありますとおり、取組みが浸透していない部分もございますので、多様な広報媒体を活用しつつ、市町村及び地域・職域で活躍される皆様とも連携を図りながら県民の皆様に健康づくりの取組みを広く周知してまいります。</p>
菅原委員 小野委員 佐藤委員	がん対策について	<p>若い世代が、がんやがん予防に関する正しい知識を持ってもらうため、県内大学・専門学校と連携した若い世代のがん予防、口腔がんの周知について、適宜検討していきたいと思っております。</p> <p>がん患者に対する助成事業の利用率については、現在データを取っておらず、かつ率を算出するには、母集団を何にするか決めることが必要なので、今後算出の可能性を検討していきたいと思っております。</p>
粕川委員	認知症対策について	<p>本県の健康増進事業は山形県保健医療計画、やまがた健康長寿安心プラン(老人保健福祉計画・介護保険事業支援計画)等、他の関連する計画と調和を図りつつ、高齢者の健康づくりや社会参加、認知症サポーターの育成など高齢者支援課及び市町村と連携しながら推進しております。</p> <p>引き続き、担当課と連携を図りながら高齢者の健康づくり施策を進めてまいります。</p>
西村委員 高田委員	減塩・ベジアップ事業について	<p>減塩・ベジアップキャンペーンは、県や応援企業などによる取組みを中心に、推奨商品シールにより、野菜摂取の再認識につながっているとお聞きしておりますが、御指摘いただいたとおり、より一層、減塩や野菜摂取増</p>

		加の認知度を高めていく必要があります。県民の皆様の手に届きやすい栄養大ブランド商品の展開に向けて、品目の増加を図るなどの取組みを進めてまいります。
西村委員	糖尿病・CKDの重症化予防について	山形県糖尿病及び慢性腎臓病重症化予防プログラムにあります主治医から保険者への保健指導依頼につきまして、市町村における状況を確認し、各保健所から各郡市区医師会に対しての協力依頼等検討してまいります。
小野委員	循環器病対策について	循環器病に係る専門知識を有する医療従事者の育成支援のための研修会については、より多くの医療従事者に参加いただけるよう広く参加募集する等工夫していきたいと思っております。 また、県民に対しては、今年度作成の啓発動画・漫画を活用し、循環器病に関する正しい知識の普及啓発を行ってまいります。
高橋委員	やまがた健康フェアについて	今回は3年ぶりに、初のショッピングモールでの開催ということもあり、健康づくりに興味がない方へのアプローチができた一方で、集客方法や運営の仕方など、課題も見つかりました。 今後も、各出展団体の御意見も踏まえて改善を図りながら、健康フェアを継続していく方向で検討しております。
高橋委員 高田委員 齋藤委員 川野委員	ウォーキングプロジェクト事業について	県民の一日当たりの平均歩数は男女ともに全国平均と比較して約1,000歩少なく、全国順位も低い状況(男性33位、女性44位)であることから、子どもから働き盛り世代、シニア世代の方まで歩く契機となる事業を実施しております。 今年度以降も、県民の皆様の歩く習慣の定着のため、市町村及び事業所と連携しながらこの取組みを進めていく方向で検討しております。

#### 4 健康やまがた安心プランの進捗状況について（第4号議案）

委員	意見等
今田委員	悪化している項目に関して、新たな取組みが必要と思われる。 特に、児童・生徒の朝食欠食、睡眠による休養が不十分、20-30歳代男性の喫煙、などが目立つ。
菅原委員	適正飲酒、受動喫煙対策について、職域保健と地域保健の連携を一層推進することが必要。
粕川委員	「身体活動・運動」も大切だが、自家用車を使用しないようにすることも必要では。
菅野委員	適切な量と質の食事をとる者の増加においては、目標値から後退している部分もあるが、県民健康・栄養調査を今年度実施しているようなので、その内容を含めて次年度の施策に反映できれば良い。
西村委員	今年度実施する県民健康・栄養調査の結果分析で目標値等の見直しを望む。
小野委員	若い方はむし歯の経験のない方が増えている。そのため通院やかかりつけ歯科医がない事により、ブラッシング指導を受ける機会がない。成人は歯周病も予防の必要があるため、指導を受けられる機会が必要と感じる。
後藤委員	栄養・食生活の分野で野菜摂取量や児童生徒の朝食欠食率が策定時からだいぶ後退しているため、親と子の各々の視点からアプリやポイント制度等も取り入れながらより多くの取組みができればと思う。

高橋委員	40 歳代男性の肥満者の割合、小中学生の肥満、児童・生徒の朝食欠食率が年々上昇している中で、R5 年度の目標値はかけ離れているように感じるが目標達成に向けた施策のうち記載以外の新たな施策はあるか。	
高田委員	男性の肥満者の割合や、野菜摂取量、虚血性心疾患の死亡率改善に向けてのより一層の取組みが求められる。	
藤沢委員	がん罹患を理由に失職する労働者の割合は横ばいとなっているが、弊社では保健師が両立支援コーディネーター講習を受講。がん患者が罹患を理由に失職することなく、治療と仕事の両立が出来るように、社員、主治医、産業医、保健師、所属上司等で情報の共有を行っている。	
川野委員	企業としては、社員だけでなく、家族にも理解をいただき、健康への取組みを推進していかなければならないと感じた。夫婦や親子で勤めている社員は、弊社の健康への取組みを家族で行っており、またその結果も良く、家族一丸となつての理解が必要だと強く感じている。	
<b>事務局回答</b>		
今田委員 菅野委員 西村委員 後藤委員 高橋委員 高田委員	栄養・食生活	今年度は 6 年ぶりに県民健康・栄養調査を実施しております。コロナによる食生活の変化や栄養摂取及び食生活状況の結果を踏まえて、世代に合わせた取組みを検討してまいります。 また、小学校を中心に減塩(適塩)リーフレット等を活用した食育により、家庭への普及啓発もより一層推進してまいります。
今田委員	休養・こころの健康	ストレスや睡眠不足を感じている世代は男女ともに 20 代から 50 代となっております。働き盛り世代の休養については、事業所と連携し、ワークライフバランスの推進など、健康経営の取組みを普及してまいります。 また、個々が受けるストレス緩和のため、地域集会や企業に保健師が出向いて講話をする出前講座や精神保健福祉センターの相談事業をはじめ、運動、食習慣等によって心身の健康を維持する取組みも進めてまいります。
今田委員 菅原委員	喫煙	山形県の 20-30 歳代男性の喫煙率は、全国値より高い数値となっております。(20 歳代:山形県 42.0%・全国 30.7%、30 歳代:山形県 51.9%・全国 42.0%) 全国値以下の目標に向けて、保健所による大学や企業等への出前講座の実施や禁煙相談、機会を捉えての周知等取組みを進めてまいります。
菅原委員	飲酒	しあわせ子育て応援部や教育庁と連携をとりながら、地域、職場、学校など多くの場でアルコール関連問題を早期に発見し、あらゆる場面で、アルコールに関する正しい知識の普及や情報提供を行ってまいります。
粕川委員	身体活動・運動	本県の自家用車通勤の割合(全国1位)、世帯当たりの自家用車普及台数(全国3位)も高い状況にあることから、ウォーキングプロジェクトを展開し、徒歩での通勤や買い物など、県民の行動変容を促す取組みを進めてまいります。
小野委員	歯科口腔保健	今年度実施している県民健康・栄養調査において、かかりつけ歯科医の有無を調査しております。この結果を踏まえ、かかりつけ歯科医の必要性について普及啓発をどのようにすべきか検討いたします。また、成人の歯周病対策については、市町村とも連携し今後も取組みを進めてまいります。

高田委員	循環器病対策	<p>心筋梗塞による死亡や重症患者の発生を抑えるため、今年度より「循環器病救急搬送体制整備事業」を実施しており、現在、一部の地域で救急車から病院への詳細な心電図伝送システムの導入に向けて準備、話し合いを進めている状況です。今後、全県下において心電図伝送開始となるよう医療機関及び消防機関とも連携を図りながら事業を推進してまいります。</p> <p>また、小中学生の肥満や児童・生徒の朝食欠食率が年々上昇していることから、現在作成中の啓発漫画(子ども版)に当該内容を掲載する予定であり、プランの目標達成に向けて引き続き取り組んでまいります。</p>
藤沢委員	がん対策	<p>がん患者をはじめそのご家族が就労に関する様々な不安や悩みを相談できる窓口(がん総合相談支援センター)の設置や、療養生活を支える支援制度を掲載した「やまがたがんサポートハンドブック」を作成し、治療と仕事の両立を支援するとともに、労働局や医療機関等と連携し、地域の実情に応じた治療と仕事の両立支援のための情報交換を進めております。</p> <p>引き続き、関係機関との連携を図りつつ、治療と仕事を両立するがん患者の方のサポートに取り組んでまいります。</p>

## 5 次期健康増進計画の策定スケジュール(案)について(第5号議案)

委員	意見等
粕川委員	プランが順調に進むことを望む。
西村委員	策定スケジュールにそって、本会も参画させていただきたい。

## 6 その他

委員	意見等
金光委員	ウォーキング事業や健康マイレージ事業を進めている市町村とうまく連携することにより、県民が健康になるのではないかと。
粕川委員	新型コロナウイルス感染症でマスク着用するので話声が聞き取り難いにも関わらず難聴の方でも補聴器を装着する人が増えていない。職域健診と同様に住民健診においても聴力検査を導入するよう市町村に対し県から指導してはどうか。
<b>事務局回答</b>	
金光委員	市町村との連携 ご指摘にもありますとおり、市町村との連携によって、県民の皆様にごまやかに健康づくりの意識を広げられると考えておりますので、今後とも市町村と連携を図りながら県民の皆様に向けて事業を展開してまいります。
粕川委員	聴力検査 市町村が保険者として実施する特定健康診査等は生活習慣病の予防や早期発見を目的としていることから、検査項目に聴力検査は含まれておりません。 一部の市町村では、聴力のチェックを行うなどの介護予防教室等を実施しているほか、健康増進事業として健康相談を行っており、聞こえの問題を抱える方がおりましたら、専門医の受診や補聴器の利用を勧めるなどの支援をしております。 県としましても、県民の皆様一人ひとりの生活の質の維持、向上のため、引き続き、市町村の取組みを支援してまいります。